

100mm/h安心プラン 今回登録箇所一覧

今回登録箇所

自治体	水系／河川	主な事業内容			
		河川整備	下水道整備	流域対策	ソフト対策
千葉県 茂原市	いちのみやがわ 一宮川水系 いちのみやがわ うめだがわ 一宮川、梅田川	<ul style="list-style-type: none"> 堤防の嵩上げ 河道拡幅 調節池の整備 排水機場の整備 	<ul style="list-style-type: none"> 雨水管渠の整備 雨水ポンプ施設の整備 	<ul style="list-style-type: none"> 雨水貯留槽や雨水浸透ます設置に対する補助 既設ため池を利用した貯留 等	<ul style="list-style-type: none"> ハザードマップの作成、配布 企業と連携した緊急速報メールや自動電話サービス、HP等による防災情報の提供 住民や民間企業を対象とした土のう積み等の講習会実施 等
長野県 岡谷市	てんりゅうがわ 天竜川水系 つかまがわ 塚間川	<ul style="list-style-type: none"> 河道拡幅 調節池の整備 	<ul style="list-style-type: none"> 雨水管渠の整備 	<ul style="list-style-type: none"> 公共施設を利用した貯留、浸透施設の整備 等	<ul style="list-style-type: none"> ハザードマップの作成、配布 河川砂防情報ステーションによる雨量状況等の情報提供 ライブカメラによる水位のリアルタイム監視 等
静岡県 袋井市	おおたがわ 太田川水系 おおたがわ おがさざわがわ 太田川、小笠沢川	<ul style="list-style-type: none"> 河道掘削 	<ul style="list-style-type: none"> 雨水管渠の整備 	<ul style="list-style-type: none"> 公共施設を利用した貯留、浸透施設の整備 等	<ul style="list-style-type: none"> ハザードマップの作成、配布 浸水センサーの設置 HPによる雨量、水位情報の提供 等
福岡県 北九州市	むらさきがわ 紫川水系 むらさきがわ かんたけがわ 紫川、神嶽川	<ul style="list-style-type: none"> 河道掘削 調節池の整備 	<ul style="list-style-type: none"> 雨水管渠の整備 	<ul style="list-style-type: none"> 浸透側溝、浸透ます等の整備推進 等	<ul style="list-style-type: none"> ハザードマップの作成、配布 メールや商業施設の設備を利用した防災情報の配信 地域住民による土のうや止水壁等の水防設備の点検 等
佐賀県 佐賀市	ちくごがわ 筑後川水系 さげがわ さんげんがわ くるかわ じょうとうがわ 佐賀江川、三間川、黒川、城東川 かせがわ 嘉瀬川水系 ほんじょうえ じぞうがわ 本庄江、地藏川	<ul style="list-style-type: none"> 河道拡幅 放水路の整備 	<ul style="list-style-type: none"> 雨水管渠の整備 雨水ポンプ施設の整備 調整池の整備 	<ul style="list-style-type: none"> 有明海の干満差を考慮した水門施設等の操作連携による貯留量の確保(試行中) 既設の農業用水路やお濠を利用した貯留 等	<ul style="list-style-type: none"> ハザードマップの作成、配布 浸水標尺の設置、活用 メールによる防災情報の配信 HPで防災カメラ映像の公開 地域住民による河川清掃活動 等

100mm/h安心プラン 登録箇所一覧

今回の登録箇所を含め、16箇所の計画が登録されました。

	関係自治体	水系／河川	登録月
1	富山県、高岡市	庄川水系／地久子川 小矢部川水系／谷内川、守山川、四屋川	平成25年9月
2	石川県、金沢市	犀川水系／犀川、高橋川、安原川、木曳川 大野川水系／大野川、浅野川、森下川、弓取川、大宮川、源太郎川、柳瀬川、馬渡川	
3	静岡県、沼津市	富士川水系／沼川、高橋川	
4	静岡県、焼津市	瀬戸川水系／石脇川	
5	静岡県、浜松市	天竜川水系／安間川	
6	栃木県、鹿沼市	利根川水系／小藪川	平成26年2月
7	岐阜県、多治見市	庄内川水系／土岐川、脇之島川	
8	静岡県、富士市	富士川水系／小潤井川、伝法沢川	
9	愛知県、名古屋市	庄内川水系／堀川	
10	愛知県、名古屋市	山崎川水系／山崎川	平成26年9月
11	福島県、郡山市	阿武隈川水系／阿武隈川、逢瀬川、南川、谷田川	
12	千葉県、茂原市	一宮川水系／一宮川、梅田川	
13	長野県、岡谷市	天竜川水系／塚間川	
14	静岡県、袋井市	太田川水系／太田川、小笠沢川	
15	福岡県、北九州市	紫川水系／紫川、神嶽川	
16	佐賀県、佐賀市	筑後川水系／佐賀江川、三間川、黒川、城東川 嘉瀬川水系／本庄江、地藏川	平成27年2月

流域の概要

平成25年10月台風26号時の影響
【茂原市街地】



近年多発する豪雨により中流域の茂原市街地周辺で、河川の溢水や内水被害が生じている。

平成25年10月の台風26号では、河川が溢水した。これにより茂原市街地周辺では、床上320戸、床下183戸の甚大な浸水被害が発生した。主要道路は長時間に渡り冠水した。このことは緊急対策等の大きな支障となった。

また、平成24年8月の局地的大雨(いわゆるゲリラ豪雨)では、内水による主要幹線道路の冠水により市民生活に支障がでた。

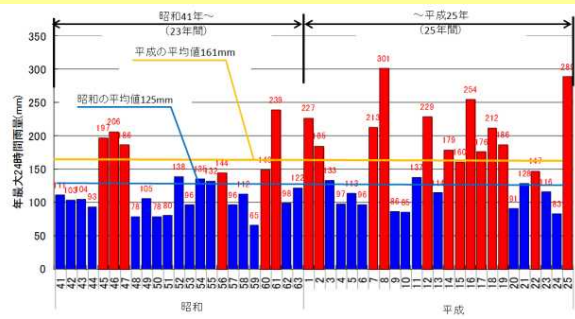
こうした浸水被害の状況を踏まえ、「100mm/h安心プラン」で対象とする降雨は平成25年10月15日～16日の台風26号(24時間最大雨量289mm、6時間最大雨量138mm、最大時間雨量51mm)とした。なお、この台風を対象とする整備により、平成24年8月6日の最大時間雨量61.5mm(既往最大)に対しても被害軽減効果は期待できる。

【年最大24時間雨量】

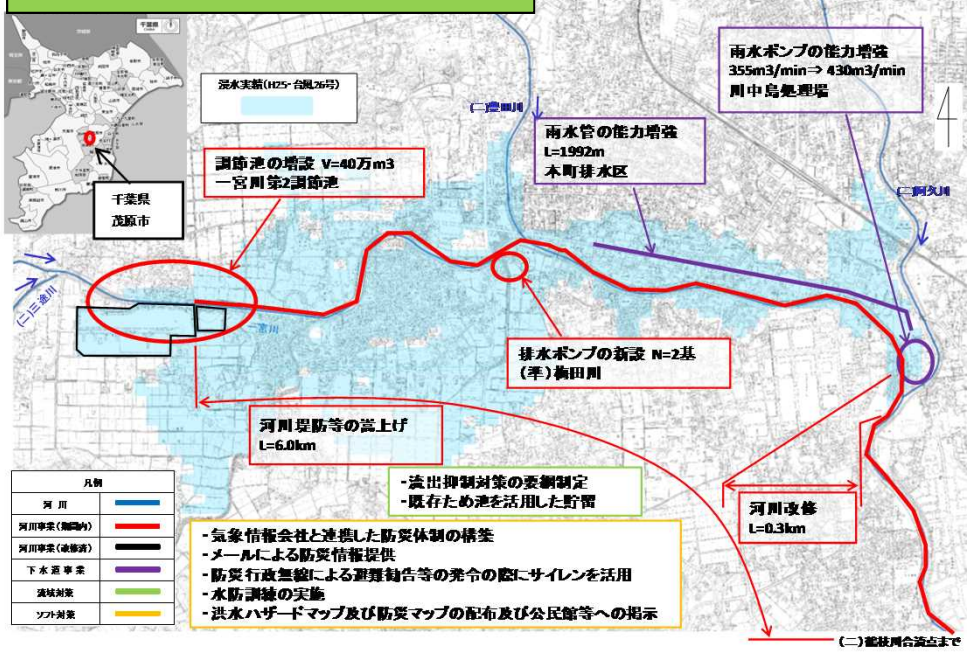
- ・昭和の平均値125mm
- ・平成の平均値161mm
- 市街地の拡大により、流出量が増大
→**浸水危険度が増大**
- ・一宮川流域の市街化率
H8年:16.7%→H23年:19.4% **約1.2倍**

○河川、下水道計画

- ・河川整備(219mm/24h、127mm/6h)
- ・下水道整備(50mm/h)



一宮川流域茂原市街地安心プラン対策箇所図



【浸水被害の主な要因】

- 頻発する豪雨により、河川の氾濫、内水氾濫の発生の危険度が増大
- 地形的要因により、河川への排水が困難、下水道事業だけでは効果が限定的
- 市街化の進展等により、流域からの流出量が増大

⇒ 一方、都市化の進展等により、浸水対策に多大な費用と時間が必要

流域における浸水対策を関係機関が一体となり効果的に組み合わせる必要がある。

一宮川流域の総合的な浸水対策について、千葉県・茂原市・地域住民の代表からなる「一宮川流域浸水対策協議会」で検討し、関係機関が対策を実施

一宮川流域浸水対策協議会

組織	部局
千葉県関係	河川整備課、下水道課、長生土木事務所
茂原市関係	土木建設課、土木管理課、下水道課、農政課、総務課
地域住民	地元自治会

取組の概要

○集中的な対策の実施

- ・河川事業と下水道事業の連携により、浸水被害の危険性が高い市街地を対象に集中的に整備
- ・河川の改修、下水道事業による雨水管・雨水ポンプの能力増強、流域対策の推進(流出抑制対策の要綱制定、既存農業用ため池の利用)により流域全体で対策
- ・千葉県(河川管理者)、茂原市(下水道管理者、準用河川管理者)及び地域住民が連携してハード・ソフト対策、進捗管理等を実施

○対策効果の早期発現に向けた進捗管理

- ・関係機関、地元の自治会で組織する一宮川流域浸水対策協議会において各実施主体が報告等を行いプランの進捗管理・評価を実施

取組の効果

期間内に関係機関が対策を実施することにより、対象とする降雨と同規模の降雨に対して茂原市街地の床上浸水被害を軽減する。

[計画名称] 塚間川流域浸水被害対策プラン

【長野県岡谷市】

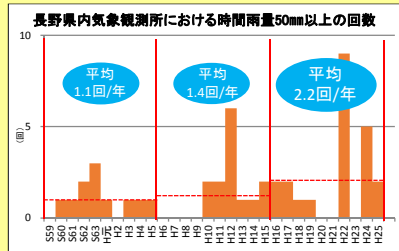
流域の概要

近年多発する集中豪雨により、岡谷市街地内において、家屋等の浸水被害が増加
塚間川流域の都市部では、近年浸水被害が発生し、特に、平成25年8月15日豪雨(最大時間雨量72mm)では、床上11戸、床下33戸の浸水被害が発生



平成25年8月15日豪雨時の溢水状況

○長野県における時間雨量
・50mm以上の発生回数
S59~H5: 1.1回/年 → H16~H25: 2.2回/年
2倍に増加

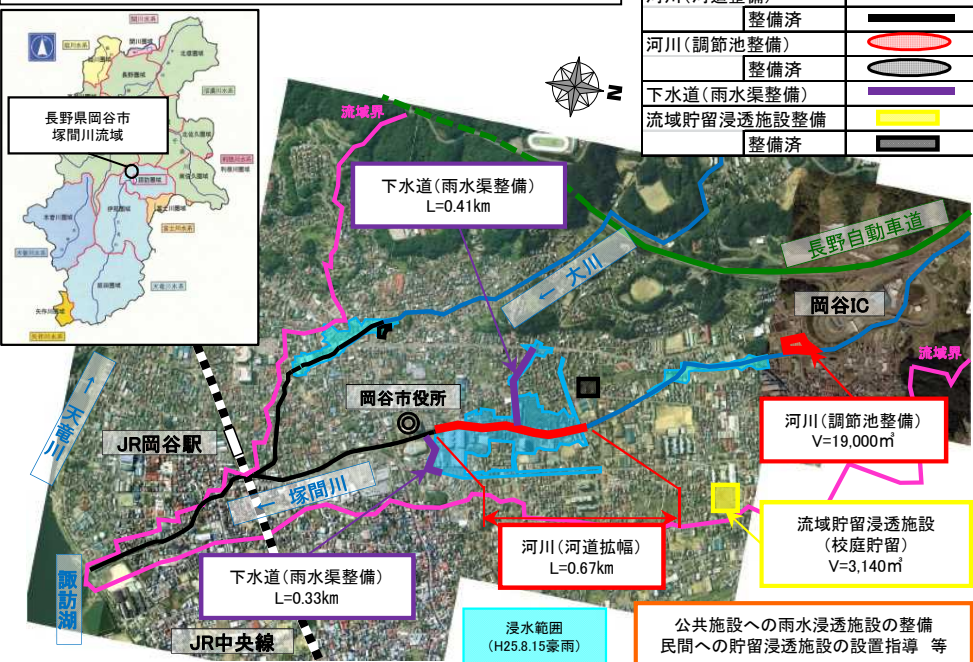


○市街地の拡大により、流出量が増大し、
浸水危険度が増大

- ・流域内の建物比率
S51年: 31.6% → H18年: 35.6% **約1.13倍に増加**
- ・河川整備(河川整備計画目標1/30)
- ・下水道整備(雨水: 全体計画1/5)

○100mm/h安心プランで対象とする降雨 平成25年8月15日 最大時間雨量72mm

塚間川流域浸水被害対策プラン 対策箇所図



【浸水被害の主な要因】

- 頻発する集中豪雨により、流下能力を超える洪水の発生、浸水の発生の危険度が増大
- 市街化の進展等により、流域からの流出量が増大し、一気に河川に流入
一方、都市化の進展等により、河川改修に多大な費用と時間が必要
- 排水能力を超える雨水の流出により、内水被害が頻発

⇒ 流域における浸水対策を関係機関が一体となり効果的に組み合わせて推進する必要がある。

塚間川流域の総合的な治水対策について、長野県・岡谷市・地域の住民(団体)からなる「塚間川流域総合治水対策会議」で検討し、関係機関が対策を実施

「塚間川流域総合治水対策会議」

組織	部 局
長野県	河川課、生活排水課、諏訪建設事務所
岡谷市	建設水道部(土木課、水道課)、 総務部(危機管理室)
住民(団体)	今井区、間下区、新屋敷区、岡谷市消防団



取組の概要

- 集中的な対策の実施
 - ・河川事業と下水道事業の連携により、近年浸水被害が発生し、危険性が高い地域を集中的に整備
 - ・河川整備(調節池、河道拡幅)、下水道整備(雨水渠)、流域における貯留浸透施設の整備等により、流域全体で対策
 - ・河川管理者である長野県、下水道事業者である地元岡谷市、地域の住民(団体)等が連携して対策、進捗管理、ソフト対策を実施
- 対策効果の早期発現に向けた進捗管理
 - ・関係機関・地域で組織する「塚間川流域総合治水対策会議」において各実施主体が報告を行いプランの進捗管理・評価を実施

取組の効果

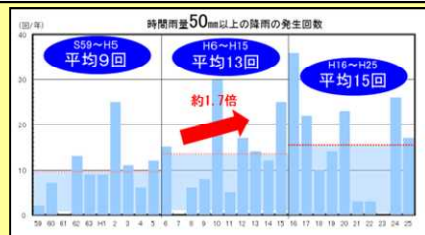
期間内に関係機関が対策を実施することにより、対象とする降雨と同規模の降雨に対して、家屋の浸水被害が解消される。

流域の概要

近年多発する局地的豪雨により、中小河川や都市下水路など小流域の浸水被害が多発

【静岡県における時間雨量50mm以上の発生回数】

- ・過去(S59~H5)10ヶ年での平均発生回数は9回 (H6~H15)10ヶ年での平均発生回数は13回
- ・近年(H16~H25)10ヶ年での平均発生回数は15回



静岡県西部の小笠沢川流域では、過去から多くの浸水被害に見舞われており、近年では平成16年11月洪水(76mm/h)により床上4戸、床下75戸、緊急輸送路2路線の浸水被害が発生 ⇒ 頻発する局地的豪雨に対して早急な浸水対策が急務

- ・流域内人口 9,490人(S49) → 12,350人(H25) 約1.3倍
- ・対象降雨：平成16年11月11日~12日降雨 最大時間雨量76mm
- ・河川整備：河川整備計画1/10
- ・下水道整備：雨水排水計画1/7

【浸水被害の主な要因】

- 流域内の市街化が進み、流出量が増大。浸水に対する危険度が増大
- 地形的要因(窪地地形)により河川への排水が困難、河川改修だけでは効果がない
- 都市化の進展等により、河川改修に多大な費用と時間を要する

⇒流域における浸水対策を関係機関が一体となり効果的に組み合わせ推進する必要がある

袋井市街地の総合的な治水対策について、行政・流域自治体からなる「袋井市中部豪雨災害対策アクションプラン推進協議会」で検討

袋井市中部豪雨災害対策アクションプラン推進協議会

組織	部局
県関係	河川企画課、河川海岸整備課、都市計画課、土地対策課 生活排水課、農地計画課、農地保全課、袋井土木事務所 中遠農林事務所、西部危機管理局
市関係	防災課、企画政策課、農政課、都市計画課、建設課、 下水道課

100mm/h安心プラン

対策箇所図

計画期間：平成26年度~平成29年度

至東京

原野谷川左岸4号
雨水幹線整備 1式

校庭貯留V=1,000m3

校庭貯留V=600m3

調整池V=15,000m3

小笠沢川

原野谷川

H16.11.12浸水区域
床上浸水4戸、床下浸水75戸

太田川 河道掘削工
L=1.0km(全体3.5km)

袋井市

太田川

遠州灘

凡例

- 河川
- 河川事業
- 下水道事業
- 貯留・調節施設
- 浸水域

取組の概要

- ・近年、床上浸水被害が複数回発生している流域において、局所的河川改修、下水道整備を集中的に実施
- ・流域における治水施設や公共施設等の治水機能を引き出す流域全体での対策
- ・想定を超える豪雨に対し、流域住民との協働により被害を最小化するためのソフト施策

- ・関係機関でPDCAサイクルによる進捗管理を実施
- ・進捗状況について毎年公表するとともに、住民との協働により推進

短期目標の5ヵ年における効果を確認しながら順応的に計画を修正し、流域全体の安全度を高める

取組の効果

○期間内(H26~H29)に関係機関が対策実施することにより、対象とする降雨と同規模の降雨に対して流域で床上浸水被害を解消。

【計画名称】 北九州市 小倉都心部浸水対策推進プラン

【福岡県北九州市】

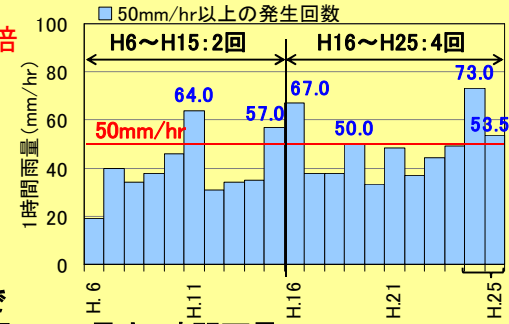
流域の概要

- 紫川下流域及び神嶽川流域では、近年多発する局地的豪雨により、河川の溢水などの、浸水被害が多発
- 平成25年7月の豪雨では、床上1戸、床下54戸の浸水被害が発生



【北九州地方における時間雨量50mm以上の発生回数】

- ・過去(H6～H15)
10ヶ年での発生回数は2回
(10年に2回)
- ・近年(H16～H25)
10ヶ年での発生回数は4回
(10年に4回)



- ⇒頻発する局地的豪雨に対して
早急な浸水対策が急務
- 小倉都心部浸水対策推進プランで
対象とする降雨は、平成25年7月3日の最大1時間雨量73.0mm

【浸水被害の主な要因】

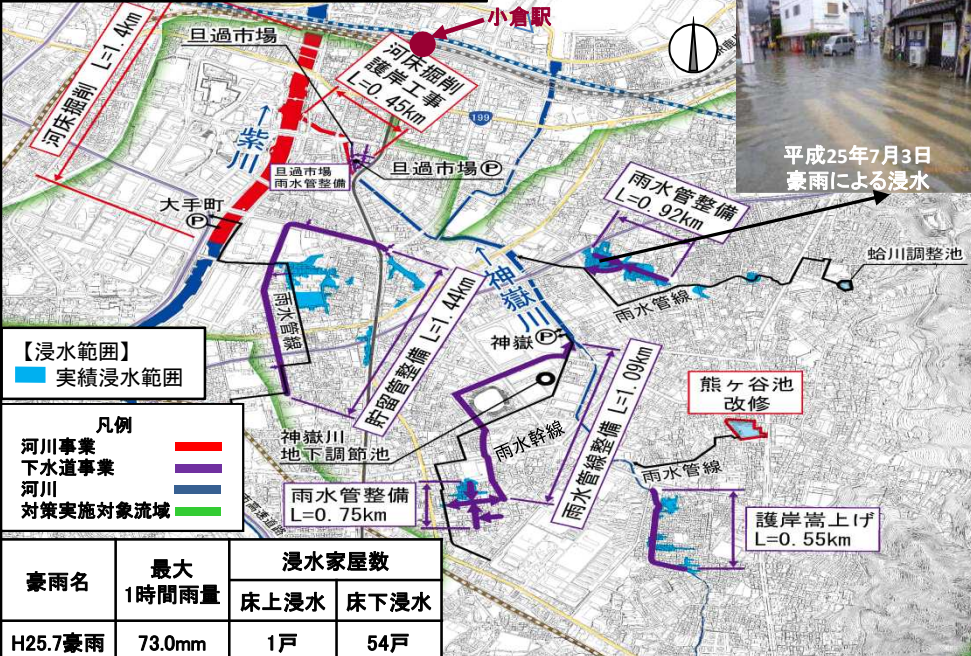
- 頻発する集中豪雨により、危険度が増大
- 紫川下流域や神嶽川は、下流から河川改修を進めているが、下流部ネック箇所を改修するまで時間を要するため、排水が困難
- 下水道(雨水排水)の整備を進めているが、近年整備基準を上回る降雨の発生により、浸水する頻度が増大

河川と下水道が連携し、流域における浸水対策を推進する必要がある。

紫川流域会議

組織	部局
県関係	北九州県土整備事務所
市関係	建設局、上下水道局、環境局、建築都市局、小倉北区役所、小倉南区役所、教育委員会
住民	自治会、愛護団体

平成25年7月3日豪雨被害状況と対策



取組内容

＜計画期間：H27年度～H36年度＞

- 河川整備
紫川における川底の掘削、神嶽川における巨過市場(神嶽川流域に隣接する商業施設)のまちづくりと併せた川底の掘削、護岸の整備等により、雨水を安全に流す
- 下水道整備
雨水管や雨水貯留管等の整備により、速やかに地表の雨水を排水
- 浸水被害軽減対策
 - ・公共施設(ため池)での流出抑制
 - ・「巨過市場休憩所」にてハザードマップを掲示
 - ・市民と行政による水防訓練や商業施設等の大型画面を用いた啓発活動、防災の出前講演の実施
 - ・防災の出前講演を行う中で、防災情報のメール自動送付サービスへの登録を周知

取組効果

河川と下水道が連携して整備を実施するとともに、関係機関が一体となり、浸水対策を取り組むことにより、対象とする降雨と同規模の降雨に対して、流域内の床上浸水被害の解消と浸水エリアの縮小を図る。

[計画名称]佐賀市排水対策基本計画

【佐賀県佐賀市】

流域の概要

●佐賀市の平野部では、近年頻発する集中豪雨により、平成20年6月、平成21年7月、平成24年7月と市街地を中心に大規模な浸水被害が発生、床上・床下浸水被害は500戸を上回る

●浸水は広範囲かつ長時間に亘るため、道路冠水による通行止めや鉄道運休など交通機関の乱れにより、都市機能が低下、また、トイレが使えなくなるなど市民生活に支障をきたしている。このため、排水対策による浸水時間の短縮は喫緊の課題である

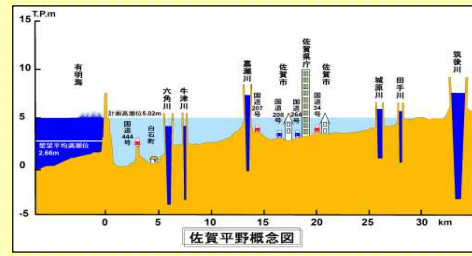
年月	床上	床下
H20年6月	24	484
H21年7月	11	591
H24年7月	9	489



●100mm/h安心プランで対象となる降雨 平成24年7月13日 最大91 mm/h

浸水被害の主な要因

- 市街地は洪水時の河川水位や有明海の高潮時の潮位よりも低い低平地であるため、河川への自然排水が困難
 - ・勾配が緩い地形のため、排水に時間がかかる
 - ・潮位によって、河川の排水が進まない時間帯がある
- 総延長約1600kmに及ぶ水路網に樋門や樋管が多数存在するため、洪水時など相互間での調整が必要
- 豪雨時期は灌漑期と重なり、普段から用排水を兼用した水路の水位が高く保たれているため、排水に時間がかかる



佐賀市の総合的な治水対策について、行政・流域の自治体からなる「佐賀市内浸水軽減対策協議会」で、検討、対策、事業進捗・効果の確認を実施

佐賀市内浸水軽減対策協議会

組織	部局
国関係	筑後川河川事務所
県関係	河川砂防課、農地整備課、佐賀土木事務所、佐賀中部農林事務所
市関係	総務部、農林水産部、建設部

取組内容

- 計画期間 H26年度～平成31年度
- 河川事業
 - ・河川改修、放水路整備等
- 下水道事業
 - ・雨水幹線、ポンプの整備等
- 施設
 - ・既存施設(水門・ポンプ)の操作連携(試行中)
- 流域対策
 - ・お濠貯留、農業用排水路(クレーク)貯留
- 危険情報周知、水防活動等
 - ・浸水標尺の設置・活用、防災情報(知識)の提供、土のうの提供
 - ・市民が主体となった河川清掃活動等(佐賀市水対策市民会議)

ポイント1
既存施設の操作連携により、佐賀江川の水位を下げる
河川・下水道の整備を図る
佐賀市街地の浸水時間を短縮させる

ポイント2
想定以上の豪雨に対しては、流域貯留対策により被害軽減を図る

ポイント3
行政と市民が一体となって排水機能の維持・向上を図る



下水道事業の概要	
尼寺雨水幹線	水路工 L=2.3km
尼寺調整池	2箇所 V=4.3万m ³
尼寺雨水ポンプ場	Q=6m ³ /s(新設)
新村愛敬雨水幹線	水路工(狭窄部改修)
十間堀川雨水幹線	水路工 L=1.5km (基本計画の中長期対策)
石塚雨水ポンプ場	Q=4m ³ /s(新設)
諸富中央雨水幹線	水路工(狭窄部改修)
厘外雨水ポンプ場	Q=2m ³ /s(新設)

河川事業の概要	
黒川	河道拡幅 L=2.3km
三間川	河道拡幅 L=0.8km 放水路 L=1.3km
城東川	河道拡幅 L=1.1km
本庄江	河道拡幅 L=6.0km
地蔵川	河道拡幅 L=0.6km

操作連携(試行中)	
大井手堰	
枝吉水門	
尾の島水門	
蒲田津水門	

流域対策の概要	
お濠貯留	ゲート設置V=3.4万m ³
農業用排水路(クレーク)貯留	徳永線・南里線・城西線

平成24年7月13日 JR佐賀駅前

蒲田津G (操作連携)

枝吉G (操作連携)

尾の島G (操作連携)

大井手堰 (操作連携)

諸富中央雨水幹線

石塚P

新川

早津江川

筑後川

有明海

<凡例>

- 河川(国)
- 河川(県)
- 事業済河川
- 事業河川
- 下水道
- 貯留施設
- 市街地
- 浸水域(H24)

取組効果

行政と市民が一体となって浸水対策を実施することにより、対象とする降雨と同規模の降雨に対し、市街地の浸水時間の短縮を図ることで、市民生活への影響を最小限にする。

100mm/h安心プランの概要

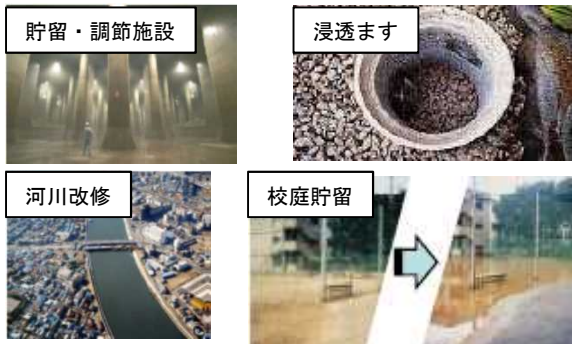
- ▶ 従来の計画降雨を超える、いわゆる「ゲリラ豪雨」に対し、住民が安心して暮らせるよう、関係分野の行政機関が役割分担し、住民(団体)や民間企業等の参画のもと、住宅地や市街地の浸水被害の軽減を図るために実施する取組を定めた計画を「100mm/h安心プラン」とする。
- ▶ 策定主体は市町村および河川管理者、下水道管理者等とし、水管理・国土保全局長において登録を行う。
- ▶ 登録した地域について、流域貯留浸透事業の交付要件を緩和することにより、計画的な流域治水対策の推進を図る。

●対象地域

河川事業および下水道事業が実施されている**住宅地や市街地の浸水被害を軽減**を図る地域

●計画策定主体

市町村および河川管理者、下水道管理者（必須）
住民(団体)や民間企業等（任意）



期待される効果

- 河川や下水道等の連携により一層の効果的な整備が可能
- 登録、公表等により一層の整備推進等が見込まれる
- 住民等の参加により、地域の防災への意識が高まる

